



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2014.1

No.357

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



みんなで“Fool on the Hill！”

県内のタカの渡りルート解明にチャレンジしよう！

タカの渡りの名所といえば、白樺峠に伊良湖岬、さらに西の佐多岬、福江島…。シーズン中に各地の名所に
出かけ、空を見上げてタカ柱に歓声を上げる人はたくさんいます。しかし、「いったい、どこから、どんなルート
でここまで来たのだろうか？」と思いを馳せる人は、どれぐらいいるのでしょうか？

さらに、その渡りルートの解明に乗り出そ
うとする人は、少数派。多くの人々が名所に
繰り出す頃、少数派の人々は地図をにらみ、
「ここは！」と思った場所に通いつめ、祈る
ような気持ちで空を見上げています。トビ1
羽すら飛ばない日もしょっちゅう。だからこ
そ、ほんの数羽のタカ柱でも見つけた時の喜
びと言ったら……！

毎年、渡りの季節をこんなふうにご
過ごしているある人が言いました。「私達は“Fool on
the Hill”みたいなものですね」。

Fool on the Hill…ビートルズ世代の方は
ご存知でしょう。作詞・作曲はポール・マッ
カートニー。この歌に登場するのは、丘の上
でいつも空を眺めている男。人々は彼を狂人
扱いしていますが、彼の頭の中はいつも宇宙
のことでいっぱい…歌のヒントになったのは、
教会の異端審問に付され、田舎に塾居を命じ
られたガリレオ・ガリレイだそうです。ガリ
レオは長期間にわたって天体の観測を行い、
天文学や物理学に偉大な業績を残しました。
関東の空を眺め続けている「Fool on the
Hill」の人たちも、渡りをするタカのうち、
サシバのルートについて成果を出し始めてい
ます（下図。この図は、池野進氏ら作成の図

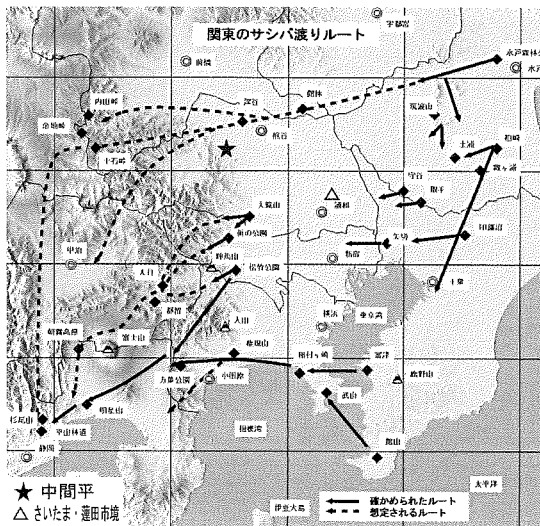
を渡部徹氏・池上武比古氏（日本野鳥の会神
奈川支部）が改変したものに、許可を得て埼
玉県内の調査地を加えたものです）。

北関東以北で繁殖を終えたサシバは、8月
の半ば頃から南への旅を始めます。関東地方
を渡るルートは、陸上を西へ進むルートと、
東京湾を越えるルートの2つがあることが判
ってきました。東京湾ルートは千葉県を南下
し、富津岬や館山から海を渡って対岸の三浦
半島へ。陸上ルートはおそらく埼玉や東京を
越え、西部の丘陵地帯から丹沢山地を抜け、
箱根付近で東京湾ルートと合流。さらに静岡
県の杉尾山では未解明の山越えルートと合流
し、時には1万を越す大群となって伊良湖岬
を目指します。

ここでもう1度、下図をご覧ください。埼
玉県内がほとんど空白です。県内ではサシバ
の通過する地点として、天覧山、中間平、さ
いたま・蓮田市境の3ヶ所を毎年、観察が行
われています（天覧山の他は図中★△で示し
ました）。今年度の結果は右ページです。

天覧山を越えたサシバの一部は、青梅市か
ら南西へ進むことが判っていますが、他は不
明。あとの2ヶ所を通るルートについては、
現時点ではまったく判っていません。さいた
ま・蓮田市境（△）を通るルートは西進し天覧
山につながりそうですが、未確認。中間平ル
ートは、図中、点線で示された深谷市から奥
秩父の山々を越えてゆく想定ルートに関わっ
ているかもしれません。判らないことだらけ
ですが、明らかに、サシバ達は埼玉県の空を、
私達の頭の上を渡っているのです。

皆さん！ 図を見ていたらウズウズしてき
ませんか？ 矢印と矢印の間の空白を埋めたく
なりません。ウズウズして来た方は＜
県内のサシバ渡りルートを調べる！＞を新年
の目標に加えましょう。そして秋になったら、
右ページの人たちに負けず、みんなで“Fool
on the Hill！”（研究部 小林みどり）



2013 年秋 タカ渡り調査結果

日本野鳥の会埼玉 研究部

研究部では毎年9月末に、会員の皆様と共にサシバ、ハチクマなどのタカの渡り調査を行っています。今年9月29日(日)に中間平(寄居町、担当：千島康幸)と天覧山(飯能市、担当：佐久間博文)の2ヶ所で行いました。

その結果を下の表に示しました。2ヶ所でサシバ3羽が観察されたほか5種類のタカ類が観察されました。調査には43名の方々にご協力いただきました(参加者名は今月号の行事報告欄に掲載)。ありがとうございました。

観察場所	天候	時間	観察された個体数		その他のタカ類	調査参加者数
			サシバ	ハチクマ		
中間平緑地公園 (寄居町秋山)	晴	08:00~12:00	1	1(調査終了後)	ツミ2、オオタカ1、ノスリ3、トビ	18名
天覧山(飯能市飯能)	晴	07:30~14:00	2	0	ノスリ1、チゴハヤブサ1	25名

2013 年秋・県内各地のタカ渡り状況のまとめ

研究部主催の調査は上記の2ヶ所1回のみですが、天覧山、中間平、さいたま・蓮田市境の3ヶ所で、多くの会員の皆様がシーズン中、ほぼ毎日のようにタカの渡りの観察を続けています。皆様からご提供いただいた今秋のタカ渡りのデータを以下の表にまとめました。

約20年観察を続けている天覧山、中間平ともに、この秋渡ったタカ類の個体数は過去最低だったそうです。またサシバの渡りのピークが各調査地で異なり、特にさいたま・蓮田市境が早いことがわかりました。情報をくださった皆様、ありがとうございました。

(データまとめ 研究部 小林みどり)



さいたま・蓮田市境での観察(撮影 田中幸男)

調査場所	調査者	2013年の調査期間 及び調査回数	個体数の総計(羽)			サシバ最高 個体数(羽)	調査で記録されたその 他のタカ類(カッコ内は 渡り個体数)	観察 開始年
			サシバ	ハチクマ	ノスリ			
天覧山 (飯能市飯能)	天覧山タカ渡り観 察グループ(代表 大塚隆廣)・参加延 べ人数332名	9月4日~10月24 日/30回	246	8	51	57(9月23日)	ミサゴ(1)、トビ、オオタ カ、ツミ(2)、ハイタカ、 クマタカ、ハヤブサ (1)、チゴハヤブサ (1)、チョウゲンボウ	1989
中間平緑地公園 (寄居町秋山)	千島康幸、石松康 幸、桜井正純、中 村博文他・参加延 べ人数約100名	8月31日~10月6 日/25回	87	9	*	22(9月18日)	ミサゴ、トビ、オオタカ、 ツミ、ノスリ、クマタカ、 ハヤブサ、チョウゲンボ ウ	2009
さいたま・蓮田市境 (さいたま市岩槻区 馬込、蓮田市川島)	中島康夫、田中幸 男、玉井正晴、赤 坂忠一、他・参加 延べ人数133名	9月1日~10月4 日/27回	159	2	*	48(9月10日)	トビ、オオタカ、ツミ、ノ スリ、チョウゲンボウ	2008

*：渡り個体のカウントは行っていない。

白樺峠・タカの渡り探鳥会に参加して 吉原俊雄(北本市)

2013年9月22日(日)・23日(月・祝)。

集合場所からのバスの中で、「今年はマツタケが豊作です」とのリーダーの挨拶。

正午に現地到着。午後2時半頃、雲間に青空が覗く様になると、前方遠くの上空に数羽のハチクマが湧き上がる。旋回しながら上昇したかと思うと、一気にこちらに向かって滑空して来る。左手の白樺林の裏を通過するもの、右手遠方の山側の上空や中腹を通過するもの、眼下の谷間を通過するもの、見ごたえ充分。見送るとまた前方の上空に湧き上がり、午後4時の下山まで飽きる事はありませんでした。ほとんどはハチクマ。サシバは少数。

夕食は期待通り。大豊作のマツタケごっそりのキノコ鍋。茶碗蒸しも天ぷらにもマツタケ。最後はご飯を入れて雑炊。飲兵衛が満足していたお酒、私は下戸のため省略。

翌日の朝食もマツタケごっそりの「とうじ(投汁)そば」。マツタケをお土産にした方も。

9時半から観察開始。しかし厚い雲。11時半を過ぎるとポツリポツリと出現。山に日射しが当たり始めた12時には、飽きる事の無い間隔で出現。昨夜泊まったハチクマが次々と湧き上がり、高みに達すると一気にこちらに飛んで来る。今日は北風が強いのか、前方の山で湧き上がった小さなハチクマもアツという間に上空を通過。この様な状態が下山予定の午後2時半まで続き、後ろ髪を引かれる思いで駐車場に下りました。10羽程のタカ柱は何度も。もっと大きなタカ柱は次回に！

サシバは、台風一過の16日以降の晴天で連日飛んでおり、既にピークは過ぎていました。そのため、ほとんどがハチクマで、サシバの確認は数羽でした(と、思っていました)。

帰宅後、渡り調査情報を見ると22日：サシバ103羽ハチクマ67羽、23日：サシバ598羽ハチクマ184羽(184羽は今季それまでの最多数)。2日間ともサシバの方が多いのです。見間違えていたとは思いたくなく、それでも「ハチクマの方が多かった」とガリレオ・ガリレイの気持ちです。

五輪競技場建設に揺れる葛西臨海公園 大井智弘(さいたま市)

葛西臨海公園は2020年東京五輪でカヌー(スラローム)会場になる。日本野鳥の会は、「五輪には反対しないが、自然を壊す会場建設には反対する」と東京都に計画変更を求めている。そんな中、9月21日(土)に葛西臨海公園を訪ねた。目的は、公園のどの辺りが建設予定地となっているのか、鳥見に来ている方々や鳥類園で働いている方々はどのような考えを持っているのかを知るためであった。

鳥類園付近では、カイツブリが「ケレレレ」と鳴き、モズの高鳴き、そしてカワセミ、バン、ヨシゴイを観察できた。下の池では、イソシギ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、コチドリ、ゴイサギ、トウネン、ソリハシシギ、アオアシシギ、セイタカシギ、ハクセキレイが迎えてくれた。鳥見に来ていた地元の方に「どの辺が開発されてしまうのですか？」と質問してみると「鳥類園付近は残るが小鳥たちがいる西側の木々を伐採する。鳥が減るのは目に見えている」と答えが返ってきた。鳥類園の方に野鳥への影響等を聞いてみると、「展望広場の西側をスラロームコースや観客席にする予定で、競技場が作られる場所から小鳥たちが鳥類園の方へ移動してくるかもしれませんが、あの辺りはオオルリ、キビタキ、サンコウチョウ、コサメビタキ、クロジと渡りの時期は絶好の場所なのでいい影響はないのではないか。植物や昆虫への影響は大きいし、災害時の避難場所でもある地域にプールのような競技場を作ってしまうといいのか心配です」と話してくれた。

下の写真は競技場の完成予想図(招致委員会ウェブサイトから)で、立ち席を含めると1万5千人を収容できる。五輪後は、市民がカヌー競技以外にラフティングなどのレクリエーションにも使える施設を残すという。五輪後に葛西臨海公園で閉古鳥が鳴くことのないように、今後も競技場建設問題を注視していくことが必要だと思われます。





野鳥情報

羽生市羽生水郷公園 ◇10月10日、ヒヨドリ 20~30羽の群れが3~4群、激しく鳴きながら飛び回っていた。渡って来たようだ。コガモのエクリプスが7羽、ヒドリガモのエクリプスが1羽、カルガモ14羽、高鳴きするモズ9羽。ノスリ2羽とトビ4羽がゆったりと旋回。その他、ダイサギ2羽、アオサギ1羽、オオバン1羽、バン1羽、ヒバリ1羽など(長嶋宏之)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇10月11日、エゾビタキ1羽、ケヤキの梢で何度もフライキャッチを繰り返していた。10月18日、エナガとシジュウカラとメジロ、それぞれ5~6羽の混群が小径の左右を行ったり来たり。カケス2羽がナラ林で枝移り。エナガとカケスは今季の初認。10月19日、22日、ヒヨドリの群れ15~20羽が西から東に飛んだ。いつもと逆の方角。10月22日、小型のタカがカラスに2~3度からんで、東南に流れた。ハイタカのようなだった。10月24日、ここでは珍しいホオジロ♂がアンテナで囀っていた。コジュケイが大きな声で鳴いた。久しぶり。10月30日、ジョウビタキ♂が植木の天辺で鳴いていた。今季初認。10月31日、ジョウビタキ♀が植木の間で枝移り。藪の中から弱い微かな声で「チッ チッ チッ」。アオジのようだ(長嶋宏之)。

さいたま市見沼区加田屋 ◇10月12日、加田屋川にコガモ♀型4羽、アオサギ2羽、ダイサギ2羽、コサギ1羽。見沼代用水沿いの桜並木にエナガ5羽(小林みどり)。

深谷市川本白鳥飛来地 ◇10月14日、コジュケイ5羽+、道の脇から一斉に飛び立って藪の中へ。ミサゴ1羽、ノスリ1羽、ノビタキ1羽。ガビチョウさえざり(小林みどり)。

川越市伊佐沼 ◇10月14日、なんとなく怪しいチドリが1羽。コチドリにしては赤味の強い脚が気になる。決定的瞬間まで張り込むことにした。ほどなく羽繕いを始める。おっ、いいぞ! その調子! そしてついに、伸びをする。伸ばした翼にくっきりと

あげまして おめでとぅ ごぞいます



会員の皆様、佳いお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年、日本野鳥の会埼玉創設30周年記念、公益財団法人日本野鳥の会は80周年記

念と、節目のよい年を迎えました。

探鳥会を含めて、ボランティア活動も活発に展開して行きたいと考えておりますので、どうぞ皆様方のご理解とご協力を宜しくお願い致します。

バードウォッチングを楽しみ、健康で安全に過ごしたいと思います。

皆様方のご健康と、ご活躍を、心よりお祈り申し上げます。

平成26年元旦

日本野鳥の会埼玉 代表 藤樹保司

白帯が! ハジロコチドリでした。他にイカルチドリ1羽、セイタカシギ5羽、オグロシギ1羽、アオアシシギ1羽、エリマキシギ♂1羽(小林みどり)。

さいたま市緑区芝川第一調節池 ◇10月14日、ミサゴ1羽、3回ダイビング。2回目はカモの群れの傍に飛び込んだが、カモたちは平然としていた。3回目で魚を捕り、飛び去る。チュウヒ1羽、1度ミサゴと交錯する。他にオオバン5羽、内2羽が盛んに潜っていた。オナガガモ、キンクロハジロ、コガモ、ヒドリガモなど(藤原寛治)。
◇10月31日、ハイイロチュウヒ♀、先着のチュウヒとバトル。30分で北へ、残念。他にカンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ。
11月2日、ベニマシコ、ノスリ、サンカノゴイ。サンカノゴイはここで4回目。すぐにアシ原に入り観察できません(野口 修)。

春日部市不動院野 ◇10月17日、タシギ1羽、ノスリ1羽、ノビタキ3羽。モズ1羽がオオヨシキリの鳴きまね。嘴を開けずに喉を動かすだけで声を出している。この個体は

アイラインも淡く翼の白斑も不明瞭。♂若鳥と思われる（小林みどり）。

さいたま市見沼区膝子 ◇10月17日、タシギ1羽、ハシボソガラス20羽+の群れの中に、ミヤマガラス成鳥2羽、若鳥1羽。今季初認。10月24日、刈取り中の田にダイサギ1羽、チュウサギ3羽、コサギ1羽。ミヤマガラスが30羽以上に増えた。ハシボソガラスの群れと共に行動している。あちこちでヒバリがさえざったり、追いかかけ合ったり。他にキジ♂1羽、ノビタキ1羽、キセキレイ1羽。10月27日午後4時頃、ミヤマガラス30~40羽の群れが畑で採餌。そばにハシボソガラス数羽。数が逆転した。午後4時15分頃から、ミヤマガラスが西へ向かって飛び立ち始める。周囲からどんどん集まってきた、その数は100羽+（小林みどり）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇10月18日午後3時頃、アオバト♀1羽、ミズキの实を食べていた。平地でアオバトを見るのは初めて。ヒヨドリ、シジウウカラ、メジロが数羽ずつとキビタキ♀も1羽（菊川和男）。

さいたま市緑区見沼自然公園 ◇10月18日、ヒドリガモ♂換羽中1羽、♀型6羽。オナガガモ5羽、池の上を飛び回ってなかなか着水しない。コサメビタキ若鳥1羽、キビタキ♂1羽、♀1羽+、オオルリ♀1羽+。10月29日、ヒドリガモ♂換羽中3羽、♀型4羽、オナガガモ♂13羽、♀20羽。♂は換羽中もいれば、完璧な繁殖羽もいる。セグロセキレイ成鳥2羽、若鳥1羽、芝生で飛び回る（小林みどり）。

加須市加須はなさき公園 ◇10月21日、マガモ♂エクリプス1羽、ヒドリガモのエクリプスから換羽中のみと♀が合計10羽。青空を背景にカルガモが5~20羽の群れで6群飛んだ。他にカイツブリ2羽、モズが高鳴き、カワセミが目の高さを水平に飛んだ（長嶋宏之）。

戸田市道満彩湖 ◇10月23日、この数日「カイツブリ類でも…」と彩湖へ。この日はブイの上、たくさんのカワウに混ざり2羽のウミネコ。1週間程前からカムリカイツブリ3~4羽。他にキンクロハジロ、ホシ

ハジロ、オカヨシガモ。前日はオナガガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモなどと今季カモ類は順調…？（石塚敬二郎）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇10月23日夕方、知人より携帯に連絡「子供の森にヨタカ！」初見です。近所でよかった…（石塚敬二郎）。

蓮田市閩戸 N35.9973 E139.6435 ◇10月24日、ミヤマガラス成鳥1羽、幼鳥5羽がハシボソガラス4羽と一緒に、稲を刈り取った後の、ひこばえが出ている田んぼで採餌（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区大和田町 ◇10月28日、「ヒッ、ヒッ」とジョウビタキの声。この辺では今季初認（小林みどり）。

さいたま市見沼区大和田緑地 ◇10月28日、アオジ2羽。この辺では今季初認（小林みどり）。

さいたま市北区芝川（県道2号線~鷲山橋） ◇10月28日、バン成鳥2羽、若鳥2羽。ミヤマガラス100羽+、市民の森の背後から現れ、上空を通過し南南西へ。膝子の群れとは別の群れだろうか？（小林みどり）。

さいたま市見沼区染谷 ◇10月29日、アオジ1羽。この辺では今季初認（小林みどり）。

さいたま市見沼区加田屋 ◇10月29日、加田屋川にカルガモ3羽、コガモ♂エクリプス1羽、♀型3羽、アオサギ1羽。オオジュリン1羽、ここでは今季初認。農耕地にミヤマガラス3羽+、ハシボソガラスに追い回される（小林みどり）。

坂戸市西坂戸 ◇10月30日午前6時10分、「ヒッヒッヒ タッタッタ」の鳴声。あわてて道路に出てみると、向かいのお宅のフェンスに止まるジョウビタキ♂1羽。今季初認。いよいよ冬鳥の季節。午前9時20分、セキレイの声。部屋の窓を開けて観ると、窓下の葛川にキセキレイ1羽。久しぶり（増尾隆）。

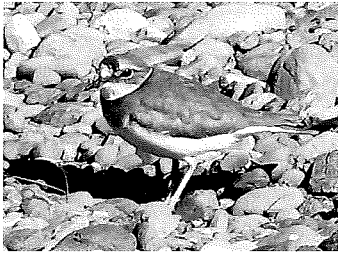
表紙の写真

スズメ目アトリ科マヒワ属マヒワ

昨年1月17日、さいたま市見沼自然公園での出会いです。 蟹瀬武男（さいたま市）



行事案内



イカルチドリ (プリングマン・ウイリアム)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。
 初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。
参加費：未就学児無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。
持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。
解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。
 悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

さいたま市・さぎ山記念公園探鳥会

期日：1月4日(土)

集合：午前10時10分、さぎ山記念公園入口。
 交通：大宮駅東口⑦番バス乗り場 9:35 発浦和学院高校行き、または東浦和駅③番バス乗り場 9:42 発さいたま東営業所行きで、「さぎ山記念公園」下車。駐車場はありませんが、もちろん飲酒運転厳禁です。
 担当：海老原、浅見、宇野澤、楠見、工藤、小林(み)、新部
 見どころ：新年の挨拶を交わして初探鳥会。昼ごろからはいつもの野外懇親会を予定。酒類、食べ物ご持参歓迎。敷物も各自ご用意ください。飲みすぎに注意しながら、短い時間を楽しく過ごしましょう。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：1月5日(日)

集合：午前9時20分、森林公園南口前。
 交通：東武東上線森林公園駅北口から立正大学行きバス 9:02 発で「滑川中学校」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。下車後、歩道橋を渡るのが最短距離です。
 費用：参加費以外に入園料400円(子供80円)、65歳以上200円(要年齢を証明できるもの)。
 担当：藤掛、大坂、杉原、鈴木、中村(豊)、藤澤、松下
 見どころ：カラ類とカモたちが待っています。南口から中央口の山田大沼まで歩きます。昼食持参で、新春の語らいをしませんか。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：1月5日(日)

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。
 交通：JR埼京線武蔵浦和駅東口から、②番バス乗り場 8:18 発下笹目行きで、「彩湖道満グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り左折して土手を越える。
 担当：小林(み)、赤坂、赤堀、有馬、石塚、大井、倉林、新部、野口(修)、松村
 見どころ：カイツブリ類、カモ類、カモメ類、猛禽類など、楽しみの多いところ。色々見られると思います。ミコアイサとベニマシコにも期待しましょう。

松伏町・まつぶし緑の丘公園探鳥会

期日：1月11日(土)

集合：午前9時、松伏町まつぶし緑の丘公園管理棟前。
 交通：東武伊勢崎線せんげん台駅東口から、茨城急行バス③番乗り場 8:21 発「まつぶし緑の丘公園」行きで、終点下車。
 担当：橋口、植平、榎本(建)、小林(善)、佐藤、佐野、進士、田邊、野村(修)、野村(弘)、森下、吉岡
 後援：まつぶし緑の丘公園管理事務所
 見どころ：公園の池でカモたちを、近隣の屋敷林や古利根川で冬の小鳥たちを探します。防寒対策はしっかりと。

千葉県・ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

期日：1月11日（土）

集合：午前10時25分、JR総武線船橋駅改札口付近。集合後京成バス10:35発船橋海浜公園行きに乗車し終点で下車。

交通：JR武蔵野線南浦和9:17→西船橋にて総武線に乗り換えて船橋で下車。

担当：佐久間、杉本、菱沼(一)、和田、渡辺
見どころ：久しぶりの冬の三番瀬です。寒いほど、北からの鳥も南下して来ます。越冬中のシギ、チドリ、そしてたまに珍しい海ガモなどを期待します。海風が強く冷たいので防風・防寒をしっかりと。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：1月12日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:50発に乗車。

解散：野鳥の森付近で鳥合わせ後、現地解散。

担当：茂木、新井、鶴飼、榎本(秀)、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上、

見どころ：昨年はオオタカが出て、野鳥の森ではアカゲラ、シロハラ、ルリビタキも見られました。今年も冬の常連が勢ぞろい。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：1月13日（月・祝）

集合：午前9時15分、アスレチック広場前・第一駐車場。

交通：東武春日部駅西口から、朝日バス③番乗り場 8:41 発春日部エミナース行きで、「共栄大学入口」下車(260 円)。西へ徒歩約7分。

担当：石川、菊川、佐藤、佐野、進士、野村(修)、野村(弘)、橋口、吉岡、吉安

見どころ：昨冬はマヒワの当り年で、枯れたコスモス畑でその実を食べていました。雑木林や斜面林沿いの道、田んぼの道で冬鳥を中心に探します。時にはカラスの声と動きにご注意！ タカが上空を飛んでいるかもしれません。探鳥会では1人の目より皆さんの目が威力を発揮します。

ご注意：帰路バスは、上記バス停発春日部駅西口行 13:07、14:20 です。

深谷市・仙元山公園探鳥会

期日：1月18日（土）

集合：午前9時、JR高崎線深谷駅南口ロータリー。

担当：新井、鶴飼、小淵、倉崎、小池、田島
見どころ：昨年はミヤマホオジロ、トラツグミ、キクイタダキ、アオゲラなどで盛り上がりしました。今季は冬鳥の出足が鈍いようですが、さて、当日は何が出迎えてくれるのでしょうか。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：1月18日（土）午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：1月19日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ（注意：担当者は8時過ぎに北浦和東口到着予定です）。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：小林(み)、青木、赤堀、浅見、楠見、倉林、小菅、柴野、須崎、新部、畠山、増田、若林

見どころ：昨年1月は、カモ4種、ツミ、ノスリ、タシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ジョウビタキ、ツグミなど 34 種も確認できました。さて、今年の三室は？

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：1月19日（日）

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:21→南栗橋で新栃木行きに乗換え柳生8:06着。またはJR宇都宮線大宮7:03→栗橋7:38着で東武日光線に乗り換え柳生8:06着。

解散：正午頃、谷中村史跡ゾーン広場

担当：佐野、植平、佐藤、進士、田邊、玉井、野口(修)、茂木、山田

見どころ：お馴染みのカモたちに加えてミコアイサ、カワアイサに期待です。チュウヒを始め、猛禽類も出揃っているはずです。

久喜市・久喜菖蒲公園探鳥会

期日：1月25日（土）

集合：午前9時15分、久喜菖蒲公園駐車場。

ご注意：集合時間が変わりました。

交通：JR宇都宮線白岡駅西口から、朝日バス8:32発菖蒲仲橋行きで、「除堀（よけぼり）」下車、徒歩約15分。バス停からご案内します。

担当：長嶋、大坂、植平、菊川、佐藤、佐野、竹山、長野

見どころ：林床のビンズイ、アシ原のオオジュリン、昭和沼のカモ等が、観察するに丁度良い距離で、皆様をお待ちしています。例年8種類のカモを観察できますが、昨年 は運よく、さらに1種多く楽しめました。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：1月26日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越 8:44 発、所沢 8:38 発に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、久保田、鈴木、高草木、中村（祐）、藤掛、星、間正、水谷、山口、山本（真）

見どころ：冬鳥は年によってやって来る鳥の数が大きく変わります。今年はどうな鳥がやって来るのでしょうか。ちなみに昨年はウソが多く、入間川でもよく見られました。

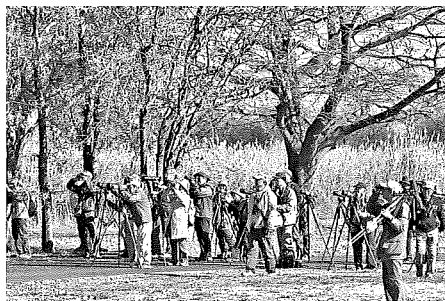
蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：1月26日（日）

集合：午前8時45分、JR宇都宮線蓮田駅東口バス停前。または午前9時、環境学習館前。

担当：玉井、内田、榎本（建）、青木、小林（み）、田中、長嶋、長野、菱沼（一）、星野、吉安

見どころ：厳しい寒さを迎え、黒浜沼周辺はもっとも鳥の多い季節になります。水辺、アシ原、草原、田畑、屋敷林等の多様な環



11月30日渡良瀬遊水地探鳥会

境にいる冬の鳥たちを探しましょう。ご注意：車で来られる方は、集合地点の環境学習館ではなく、北側に新しく出来た“緑のトラスト保全第11号地黒浜沼駐車場”を利用してください（環境学習館まで徒歩1分）。

長瀨町・長瀨探鳥会

期日：1月26日（日）

集合：午前9時40分、秩父鉄道長瀨駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 8:52→寄居 9:21→長瀨 9:39 着。

解散：正午ころ、上長瀨駅に近い自然の博物館前で。

担当：井上、鶴飼、小池（一）、佐久間、堀口、松下

見どころ：今回は、長瀨の岩畳を荒川沿いに上流へ向かってゆっくり歩くコースです。どんな鳥が見られるか楽しみです。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：1月30日（木）

集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。

交通：羽生市福祉バス手子林・三田ヶ谷ルート（ムジナもん号）東武伊勢崎線羽生駅東口 8:05 発、南羽生駅 8:22 発で、「キャッセ羽生・水郷公園」下車。

共催：羽生水郷公園管理事務所

担当：相原（修）、相原（友）、新井、植平、竹山、飛田、中川

見どころ：厳しい寒さの中、白雪の日光連山をバックにタカが飛びます。静かな公園のアシ原では小鳥たちの気配が感じられ、池では繁殖羽のカモ達が出迎えてくれます。ご注意：帰りのバスの便は14:51 発です。



行事報告

8月4日(日) 北本市 石戸宿

参加：40名 天気：曇

コジュケイ カルガモ カイツブリ キジバト
バン サシバ カワセミ コゲラ ハシブトガラ
ス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス
メジロ オオヨシキリ ムクドリ スズメ ハク
セキレイ ホオジロ (19種) 開始挨拶の前にサシ
バが上空に出現。鳥影は薄い、木陰伝いにコ
ースを巡る。カラスの姿や声のみが目立ち、鳥が19
種も出たとの認識を得るのは難しいが、花や昆虫
(チョウ、トンボ)、クモ、カナヘビも動員しての
自然観察会は、楽しめたのではないか。最後にク
ーラーの効いた学習館に逃げ込んだ。(吉原俊雄)

8月11日(日) 熊谷市 大麻生

猛暑のため中止。(榎本秀和)

8月17日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：10名

相原修一、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、
大坂幸男、志村佐治、長嶋宏之、藤掛保司、松村
禎夫、茂木幸蔵

8月17日(土) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加：45名 天気：晴

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオ
サギ ダイサギ コサギ ダイゼン ハジロコチ
ドリ シロチドリ メダイチドリ オオメダイチ
ドリ セイタカシギ オグロシギ オオソリハシ
シギ キアシシギ ソリハシシギ イソシギ キ
ョウジョシギ トウネン ウミネコ コゲラ オ
ナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュ
ウカラ ツバメ ヒヨドリ ムクドリ スズメ
ハクセキレイ カワラヒワ (32種) (番外：ドバ
ト) 猛暑の中、シギ・チドリ類の識別に挑戦。ハ
ジロコチドリ、オグロシギ、オオメダイチドリと
次第に難しくなってくる。終了後にメダイチドリ
とオオメダイチドリが並んでいて、残った人はマ
スターできたかな？ (杉本秀樹)

8月18日(日) さいたま市 三室地区

参加：28名 天気：晴

カルガモ キジバト アオサギ イソシギ カワ
セミ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス
シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ メジロ オオ
ヨシキリ セッカ ムクドリ スズメ ハクセキ
レイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ
(20種) (番外：ドバト) 立秋は過ぎたが、体感的
には夏真っ盛り！ 見沼代用水で、4羽の雛を連
れたカルガモ母さんが出迎えてくれた。風の吹き
ぬける緑陰で、しばしカルガモ家族と交流。参加
した小学生の女の子も大喜び。終わってみれば20
種観察で、まずまずの成果。(浅見 徹)

8月25日(日) 千葉県船橋市 三香瀬海浜公園

参加：23名 天気：小雨

カワウ アオサギ ダイサギ コサギ ダイゼン
コチドリ シロチドリ メダイチドリ オオメダ
イチドリ オグロシギ オオソリハシシギ キア
シシギ ソリハシシギ キョウジョシギ オバシ
ギ ミユビシギ トウネン ウミネコ コアジサ
シ アジサシ ミサゴ トビ ハシボソガラス
ツバメ ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワ
ラヒワ (28種) (番外：ドバト) 朝から小雨。でも
せっかく埼玉から来たのだからと開催。干潟に出
て鳥を探す。ここでは少ないオグロシギ、オオメ
ダイチドリなどを見た。遠くの杭の上に白い点、
ミサゴだ。ここら辺で早めに解散。(佐久間博文)

9月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加：26名 天気：曇時々小雨

キジ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ
トビ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス
シジュウカラ ショウドウツバメ ツバメ ヒヨ
ドリ エナガ メジロ ムクドリ スズメ ハク
セキレイ (18種) (番外：ガビチョウ) 土手の上で
は、しばらくカラスを観察し、歩き出すとツバメ
が飛び交う。右手の住宅の間の空き地にキジのみ
出現。ゴルフ場通路の樹木にエナガの群れとシジ
ュウカラ(声のみ)とメジロが続いた。コゲラも
飛ぶ姿を見せた。小雨の降る中で、カワウとトビ
が上空を通過していった。(茂木幸蔵)

9月15日(日) さいたま市 三室地区

雨のため中止。(小林みどり)

9月15日(日) 坂戸市 高麗川

雨のため中止。(山口芳邦)

(参考:12日下見時の出現鳥) コジュケイ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ イカルチドリ カワセミ モズ オナガ ハシブトガラス シジュウカラ ウグイス メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ イカル(20種)(番外:ガビチョウ)

9月16日(月、休) シギ・チドリ類県内調査

台風のため中止。(石井 智)

9月16日(月、休) 松伏町 松伏記念公園

台風のため中止。(田邊八州雄)

9月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア:10名

榎本秀和、海老原教子、大坂幸男、小林みどり、柴野耕一郎、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、吉原早苗、吉原俊雄

9月22日(日) 狭山市 入間川

参加:31名 天気:晴

カルガモ キジバト ゴイサギ アオサギ ダイサギ バン ヒメアマツバメ イカルチドリ イソシギ カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ ヒヨドリ メジロ セッカ ムクドリ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ(26種)(番外:ガビチョウ、ドバト)常連のイカルチドリ。探せばかなりの確率で見つかる。春先はピオピオにぎやかに飛び回るが、じっとしていればまるで石のよう。望遠鏡に入れて見せても、どこにいるのか分からない。しばらく見ていてようやく、「いた!」。今回は、これで20分くらい楽しめたかな。(長谷部謙二)

9月22~23日(日、月休) 長野県 白樺峠

参加:23名 天気:両日とも曇後晴

キジバト アオサギ ダイサギ ハリオアマツバメ アマツバメ ミサゴ ハチクマ トビ ツミ サシバ ノスリ クマタカ コゲラ アカゲラ チゴハヤブサ ハヤブサ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス コガラ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ヒヨドリ メジロ カワガラス

スズメ キセキレイ(28種)白樺峠の人の多さにビックリ! 初日は天気が曇。期待したタカ柱を見られなかった。夜は、宿のキノコ料理。松茸が豊作で沢山食べる事ができた。2日目も午前中は曇。パラパラとタカ達が渡って行く。午後天気回復してからは、目の前をハチクマが飛び歓声が上がる。次回はタカ柱が見たい。(入山 博)

9月23日(月、休) シギ・チドリ類参考調査

ボランティア:15名

相原修一、浅見徹、石井智、石塚敬二郎、石塚奏、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、大森茂男、小林みどり、佐久間博文、柴野耕一郎、鈴木秀治、中川敏子、山口芳邦

9月29日(日) タカの渡り調査

ボランティア:43名

浅見徹、新井巖、石塚敬二郎、石塚真理子、石光章、磯崎知子、一宮淳敏、伊藤幸子、今村富士子、鶴飼喜雄、大川清久、河辺典子、小出博、小林幸子、佐久間博文、桜井正純、佐野和宏、佐野弘太郎、進士悦行、鈴木敬、鈴木寿男、鈴木秀治、高橋洋一、田島利夫、千島康幸、富田美邦、中村弘、中村博文、野口修、橋本清一、藤掛保司、藤原律男、星進、増尾隆、松井昭吾、松下光、松苗紀彦、三上博、水谷真人、村上政直、持丸順彰、藪本さち子、若田部吉一 ◇ 調査結果は別途報告。

10月6日(日) さいたま市 民家園周辺

参加:59名 天気:曇

マガモ カルガモ コガモ スズガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバン オオタカ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ノビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ ホオジロ(28種)(番外:ドバト)夏の名残か蒸し暑い。芝川調節池の湖面を探していると渡り途中かスズガモ3羽。冬のカモたちも数は少ないが徐々に渡って来ているようだ。ノビタキも見つけて秋を実感。(手塚正義)

本号から日本鳥学会『日本鳥類目録改訂第7版』にほぼ準拠して鳥を並べています。詳細は本誌2013年12月号を参照してください。



●ただ今狩猟期間の真っ最中

11月15日から翌年2月15日まで(猟区内は3月15日まで)は狩猟期間です。狩猟が禁止または制限されている地域以外では、銃猟などが行われていて、例年全国で誤射事件が発生しています。

野鳥観察中、万一にも誤射などの事故にあわないように、十分にご注意ください。狩猟者側が注意するはずだという思い込みは禁物です。狩猟者たちの注意力は、まったくあてになりません。

道路をはずれて藪の中に入ると、シカやイノシシと間違われて誤射される危険が増します。銃猟地域でこの時期は、目立つ色彩の服装を心掛けましょう。

場所によっては発砲音が聞こえる場合があります。そもそもそういう所には近づかないのが1番です。

わな猟や、狩猟期間外の銃による有害鳥獣駆除も要注意です。

●「調査」は探鳥会保険の対象外です

例えば春と秋のシギ・チドリ類調査のように、本誌行事案内欄で会員の皆様に参加を呼びかけ、参加者名簿を作成する、探鳥会に近い調査でも、万一の事故の場合、探鳥会保険は適用されないと、当会からの追加問い合わせに対し、本部普及室から回答が届きました。

タカの渡り調査、カモ科調査なども同様です。不特定多数の調査参加者全員を網羅する保険は難しく、まことに申し訳ありませんが、各自保険に加入されるなど対策をお考えの上、自己責任の範囲内でご参加を

お願いします。

●ごめんなさいコーナー

前月号行事案内欄『しらこぼと』袋づめの会「12月14日(土)」は「12月21日(土)」、連絡帳欄10月の活動「10月12日10月号校正」は「11月号校正」の誤りでした。

●会員数は

12月2日現在 1,844人。

活動と予定

●11月の活動

11月9日(土) 『しらこぼと』12月号校正 (相原修一、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、長嶋宏之)。

11月9日(土)～10日(日)都内で開催された日本野鳥の会連携団体全国集會に出席(藤掛保司、橋口長和)。

11月17日(日) 役員会(司会:長野誠治、各部の報告・県生物多様性保全活動団体登録・その他)。

11月18日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け『しらこぼと』12月号を郵便局から発送(倉林宗太郎)。

●1月の予定

1月4日(土) 編集部・普及部会。

1月11日(土) 研究部会(午後2時から)、1月号校正(午後4時から)。

1月18日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

1月19日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

今年は午年。馬の付く鳥はと考えたが、なかなか思いつかない。アマサギ(Cattle Egret)は牛だなあ。新年早々馬鹿な思索で眠れない。誰か教えて～！ 去年は、ゴメンナサイが多々ありました。今年はミスゼロに。(浅)

しらこぼと 2014年1月号(第357号) 定価 200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
 編集部への原稿 yamazekuzoku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社